

令和6年度版『小学算数3上・3下』年間指導計画・評価計画

*は「発展的な学習内容」を含む箇所
★は教育出版のWebサイトに「まなびリンク（デジタルコンテンツ）」がある箇所

<上巻>

● みんなで算数をはじめよう!／ひき算のヒミツ

4月上旬（2時間）
p.2～10

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動★(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
2	2 1 0	みんなて算数をはじめよう！／算数で使いたい見方・考え方	①②算数の学習の進め方を理解し、問題解決に生かすことができる。	・「みんなて算数をはじめよう！」及び「算数で使いたい見方・考え方」を見て、算数の学習の進め方について話し合う。	・問題解決の進め方を理解している。	・答えが同じになる式のきまりについて、筋道を立てて考えたり表現したりしている。
		ひき算のヒミツ		・「ひき算のヒミツ」の問題に取り組み、2つの数字を使って2位数・2位数の式を作り、答えになる数のきまりを考える。 ★ワークシート「ひき算の式をつくろう(1～5)」 「ひき算の式をつくろう(1～9)」を使って活動する。		
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。						
・問いをもち、主体的に考えたり友だちの考えから学び合おうとしたりするとともに、解決の過程や結果を振り返り、よりよい方法を考えたり新たな問いを見いだそうとしたりしている。						

I かけ算のきまり

4月上旬～中旬（9時間）
p.11～24

◆単元の目標と評価規準

○乗法に関して成り立つ性質について理解し、交換法則、結合法則、分配法則などが成り立つことを図や式などを用いて考える力を身につける。また、乗法に関して成り立つ性質に進んで関わり、その過程を振り返り、計算の工夫などに生かせるように気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(1)ア(ウ)、A(3)ア(ア)(ウ)、A(3)イ(ア)、内(3)(4)】

- ・乗法の交換法則、結合法則、分配法則など、乗法に関して成り立つ性質を理解している。＜知・技＞
- ・数量の関係を着目し、乗法に関して成り立つ性質を見いだしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。＜思・判・表＞
- ・乗法に関して成り立つ性質に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
7	1 1 2 2	(0のかけ算)	①0の乗法を理解する。 ※(問題発見力モデル) 本時の活動をとおりして、「はてな？」の見つけ方を学習する。	★ワークシート「点取り板」を使って活動する。 ・点取りゲームに取り組む中で、「とく点は何点かな？」という問いをもち、乗法の式の意味やよさを振り返り、「点数×入った数＝とく点」の式を表す。 ・「3点」のところが0個の場合や、「0点」のところが2個の場合も式に表せないかという新たな問いを見いだし、0の乗法の意味を知る。	・乗数や被乗数が0の乗法の意味や計算のしかたを理解している。	
		(かけ算のきまり)	②乗数と積の関係、乗法の交換法則を理解する。	★シミュレーション「九九の表」を使って活動する。 ・7の段の答えの並び方を調べることをとおして、乗数と積の関係についてまとめる。 ・7×6と同じ答えになる九九を探すことをとおして、乗法の交換法則についてまとめる。 ★まとめアニメ「かける数と答えの関係」「交かんのきまり」を使って確認・説明する。	・乗数と積の関係や、乗法の交換法則の意味や用い方を理解している。	・乗法の交換法則、結合法則、分配法則など、計算に関して成り立つ性質を、式と図を関連づけながら見いだしている。
		[つながるミカタ]	・乗数と積の関係や、乗法の交換法則を見いだす過程で、「きまり」に着目したり、「ほかのなんでも」成り立つことを確かめたりしたことを振り返り、次の問題解決につなげる。	・分配法則の意味や用い方を理解している。		
		③乗法の分配法則を理解する。	・7×6の乗法の答えの求め方をアレイ図を用いて考えることをとおして、乗法の分配法則についてまとめる。 ★まとめアニメ「分配のきまり」を使って確認・説明する。			
		④乗法に関して成り立つ性質をもとに、2位数と1位数との乗法の計算のしかたを考えることができる。	・乗法に関して成り立つ性質などを用いて、13×4の答えの求め方を考える。		・乗法に関して成り立つ性質を活用して、10を超える乗法の答えの求め方を考えている。	
		(何十、何百のかけ算)	⑤何十×何、何百×何の乗法の計算のしかたを理解する。	・20×3、200×3のような、何十×何、何百×何の乗法の計算のしかたを10や100をもとにして考える。 ★まとめアニメ「20×3の計算のしかた」を使って確認・説明する。	・何十×何、何百×何の乗法の計算ができる。	・何十×何、何百×何の乗法の計算のしかたを、10や100をもとにして考えている。
		(3つの数のかけ算)	⑥乗法の結合法則を理解する。	・箱入りのドーナツの代金の求め方を3口の乗法の式に表すことをとおして、乗法の結合法則についてまとめる。 ★まとめアニメ「結合のきまり」を使って確認・説明する。	・乗法の結合法則の意味や用い方を理解している。	
2	2 2 3 4 5	(かけ算を使って)	⑦積から乗数や被乗数を見つけてことができる。 (除法の素地)	・6×□=24、□×3=15の□にあてはまる数の求め方を考える。	・乗数(被乗数)と積から、被乗数(乗数)を求めることができる。	
		まとめ	⑧学習内容の理解を確認し、確実に身につける。 [九九の表を広げよう]	・単元のまとめをする。 ・乗法に関して成り立つ性質などを用いて、九九表を0×0から13×13まで拡張する。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「かけ算のきまり」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・乗法に関して成り立つ性質に関心をもち、主体的に調べたり用いたりしようとしている。						

★本単元で、まなびリンク「表計算ソフト教材」を使用して、p.152「いろいろな式を考えよう!」の活動を扱うことができる。

◎ ふく習①

時	頁	学習活動
2	5	・第2学年「図をつかって考えよう」「1を分けて」の復習をする。 ・単元3「たし算とひき算」に関わる既習事項を確認する。

2 時こくと時間

4月下旬～5月上旬（7時間）
p.26～37

◆単元の目標と評価規準

○時間の単位「秒」について知り、日常生活に必要な時刻や時間を求めることができ、日常生活に生かしている。また、時刻と時間を表したり求めたりすることによって進んで関わろうとする態度を養う。【学習指導要領との関連 C(2)ア(ア)(イ)、C(2)イ(ア)】
・日常生活に必要な時刻や時間を求めることができる。また、時間の単位「秒」について知り、1分＝60秒の関係を理解している。<知・技>

- ・時間の単位に着目し、時刻や時間の求め方について考察し、日常生活に生かしている。<思・判・表>
- ・時刻と時間に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。<態度>

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
4	2 6 1 3 4	(短い時間の単位)	①ある時刻からある時間経過した時刻を計算で求めることができる。 ※(問題解決力モデル)本時の活動をとおり、「なるほど!」の見つけ方を学習する。	・「町たんけんの計画を立てよう!」の活動をきっかけに、時刻と時間の学習を振り返る。 ★シミュレーション「時計」を使って活動する。 ・午前8時50分から30分たった時刻や午前10時20分から50分たった時刻のような、ある時刻からある時間経過した時刻の求め方を図を用いて考える。また、自他の考えを比較し、考え方のよさを振り返ってまとめる。	・ある時刻から一定時間後の時刻を求めることができる。	・時計の文字盤や数直線などを用いて、時刻や時間の求め方を考えている。
			[友だちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
			[つながるミカタ]	・時刻の求め方について、きりのよいところで「分ける」という見方を振り返り、次の問題解決につなげる。	・ある時刻から一定時間前の時刻を求めることができる。	
			②ある時刻からある時間前の時刻を計算で求めることができる。 ③時間と時間の和や、時刻と時刻の間の時間を計算で求めることができる。	・午前10時10分の45分前のような、ある時刻よりある時間前の時刻の求め方を図を用いて考える。 ・45分間と30分間を合わせた時間のような、時間と時間の和の求め方を図を用いて考える。 ・午前8時50分と午前11時20分の間の時間の長さ、時刻と時刻の間の時間の求め方を図を用いて考える。	・時間を求めることができる。	
1	3 5	学んだことを使おう	④時間の単位「秒」と単位の関係を理解する。	・1分より短い時間を表す単位「秒」を知り、1分=60秒を知る。 ★まどめアニメ「時間の単位 秒」を使って確認・説明する。	・時間の単位「秒」について知り、1分=60秒の関係を理解している。	
			⑤時刻や時間の計算を活用して、条件に合った計画を立てることができる。	・「遊園地の計画を立てよう!」という目的意識から、遊園地の場面絵に示された乗車時間を用いて、条件に合う計画を立てる。		・日常生活の場面で、必要な時刻や時間の求め方を考えたり、条件に合う計画を適切に判断したりしている。
2	3 6 1 3 7	まどめ	⑥学習内容の理解を確認し、確実な身につける。	・単元のまどめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「時こくと時間」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[ストップウォッチで消防訓練]	・消火器が使える時間が15秒ぐらいであることから、15秒たったと思うところで手を挙げたり、避難場所の校庭まで移動するのにかかる時間をストップウォッチで測ったりする。		
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。						
・時刻と時間の求め方を主体的に考えたり、生活や学習に活用したりしようとしている。						

3 たし算とひき算

5月上旬～下旬（14時間）
p.38～55

◆単元の目標と評価標準

○3位数や4位数の加法及び減法について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法及び減法の計算のしかたを考えることに関連して、その過程を振り返り、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)イ、A(2)イ(ア)、内(2)】

- ・3位数や4位数の加法及び減法の計算が、2位数などについての基本的な計算をもとにしてできることや、その筆算のしかたについて理解し、加法及び減法の計算が確実にできる。＜知・技＞
- ・数量の関係に着目し、計算のしかたを考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。＜思・判・表＞
- ・加法及び減法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価標準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
4	3 8 4 4	たし算	①3位数+3位数で百の位に繰り上がりがない加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・「牛にゅうバックは何まいかな?」の活動をきっかけに、場面絵を見て既習の計算を振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもち、 ・318+225のような、3位数+3位数の加法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まどめアニメ「318+225の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・3位数の加法の計算が、2位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを理解し、百の位に繰り上がりがない3位数の加法の筆算ができる。	・3位数や4位数の加法の計算のしかたを、既習の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図や式などを用いて考えている。
		②③3位数+3位数で百の位に繰り上がる加法の計算ができる。 ※(問題追究力モデル) 本時の活動をとおして、「だったら!？」の見つけ方を学習する。	・482+164のような、百の位へ繰り上がる加法の計算、324+279のような、十の位への繰り上がりが波及的に百の位へ繰り上がる加法の計算のしかたを考える。 ・2位数の加法と3位数の加法を比較して共通する見方を振り返るとともに、その見方を使って解決できそうな新たな問題を発見する。	・百の位へ繰り上がる3位数の加法の筆算ができる。		
		④3位数+3位数で千の位に繰り上がる加法の計算や、4位数+4位数の加法の計算ができる。	・823+435のような、千の位に繰り上がる加法の計算のしかたを考える。 ・3264+4358のような、4位数+4位数の加法の計算のしかたを考える。	・千の位に繰り上がる3位数の加法や、4位数+4位数の加法の筆算ができる。		
7	4 5 5 2	ひき算	⑤3位数-3位数で百の位から繰り下がりがない減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・352-214のような、3位数-3位数の減法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まどめアニメ「352-214の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・3位数の減法の計算が2位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを理解し、百の位に繰り下がりがない3位数の減法の筆算ができる。	・3位数や4位数の減法の計算のしかたを、既習の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図や式などを用いて考えている。
		⑥3位数-3位数で百の位から繰り下がる減法の計算ができる。	・637-285や927-789のような、百の位から繰り下がる減法の計算のしかたを考える。	・百の位から繰り下がる3位数の減法の筆算ができる。		
		⑦波及的に繰り下がる減法の計算のしかたを理解する。	・304-128や1000-347のような、一の位の計算をするときに波及的に繰り下がる減法の計算のしかたを考える。 ★まどめアニメ「304-128の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・波及的に繰り下がる減法の筆算ができる。		
		⑧4位数-3位数の減法の計算や、4位数-4位数の減法の計算ができる。	・1267-534のような、千の位から繰り下がる減法の計算のしかたを考える。 ・3972-1368のような、4位数-4位数の減法の計算のしかたを考える。	・千の位から繰り下がる3位数の減法や、4位数-4位数の減法の筆算ができる。		
		(たし算とひき算の暗算)	⑨加法と減法の暗算ができる。	・38+24のような、2位数どうしの加法の暗算のしかたを考える。 ・56-17のような、2位数どうしの減法の暗算のしかたを考える。	・2位数どうしの加法と減法の暗算ができる。	
		(計算のくふう)	⑩加法や減法の性質を用いて、工夫して計算するしかたを考えることができる。	・198+320や500-198を、きりのよい数にして工夫して計算するしかたを考える。	・加法や減法で、計算のしやすい数値に直して、工夫して計算することができる。	・加法及び減法に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫している。
		⑪3口の加法の場面で、結合法則を用いて工夫して計算することができる。	・386+67+33のような、計算の順番を変えときりのよい数になる加法について、結合法則を用いて工夫して計算する。	・加法の結合法則を用いて、工夫して計算することができる。		
	[3つの数の筆算]	・359+836+147のような3口の加法も、筆算できるとことを知る。				
1	5 3	学んだことを使おう	⑫日常生活の場面と関連づけて、加法や減法の計算を活用することができる。	・「おこづかい帳をつけよう!」という目的意識から、3位数どうしの加減計算を活用して、おこづかい帳の空欄にあてはまる金額を求める式を考えたり、残りの金額から誕生日プレゼントの買い方考えたりする。		・表をよみ取り、空欄にあてはまる数値の求め方を、筋道を立てて考えている。
		まとめ	⑬学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「たし算とひき算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
2	5 4 5					
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。						
・加法及び減法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに主体的に考えたり、加法及び減法を生活や学習に活用しようとしていたりしている。						

4 わり算

5月下旬～6月上旬（11時間）
p.56～69

◆単元の目標と評価標準

○除法の意味や式について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、除法について考えることに進んで関わり、除法を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)、A(4)イ(ア)(イ)】

- ・除法の意味や式について理解し、除数と商がともに1位数である除法の計算が確実にできる。また、簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算のしかたを知っている。＜知・技＞
- ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。＜思・判・表＞
- ・除法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価標準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
2	5 6 1 5 9	分けられる数はいくつ	①除法の意味(包含除)、除法の式について理解する。	・「どんな分け方をしているかな？」の活動をきっかけに、2つの場面絵を比較すること、分け方の違いに関心をもつ。 ・12個を4個ずつに分けると3つに分けられる場面を表すことをおとし、除法(包含除)の意味と式、「わり算」の意味を知る。 ★まどめアニメ「いくつ分をもとめる式」を使って確認・説明する。	・包含除の場合について、除法の意味や式の表し方を理解している。	・除法が用いられる場面を具体物や図などを用いて表現するとともに、除法と乗法や減法との関係などに着目して計算のしかたを考えている。
			②除法(包含除)の答えの求め方を理解する。	・24個のビー玉を6個ずつに分ける場面で、包含除の場合の答えの求め方を考える。	・除法(包含除)と乗法との関係について理解し、除法の答えを求めることができる。	
7	6 0 1 6 7	(2つの分け方)	③除法の意味(等分除)を理解する。	・12個を4人で同じ数ずつ分けると1人分は3個になる場面を表すことをおとし、除法(等分除)の意味と式を知る。 ★まどめアニメ「1人分の数をもとめる式」を使って確認・説明する。	・等分除の場合について、除法の意味や式の表し方を理解している。	
			④除法(等分除)の答えの求め方を理解する。	・24個のいちごを6人で同じ数ずつに分ける場面で、等分除の場合の答えの求め方を考える。	・除法(等分除)と乗法との関係について理解し、除法の答えを求めることができる。	
			[つながるミカタ] ⑤包含除と等分除を統合的に理解する。	・包含除の場合と等分除の場合について、「分け方のちがひ」という相違点や、「どちらでもかけ算」で答えを求めるという共通点を振り返り、次の問題解決につなげる。 ・8÷2の式になる包含除の問題と等分除の問題を作り、それぞれ答えの求め方を図や式に表して比較する。	・包含除の場合と等分除の場合を比較し、除法が用いられる場合や、除法と乗法との関係について理解している。	
		(0や1のわり算)	⑥包含除と等分除の場面について、それぞれテープ図に表して理解を深める。	・連続量になる場面で、20÷4の式になる包含除の問題と等分除の問題を作り、それぞれ答えの求め方をテープ図に表して比較する。	・除法が用いられる場面の数量の関係を、図に表すことができる。また、除数と商が1位数の除法の計算ができる。	
			⑦0や1の除法の意味を理解する。	・6個、3個、0個のドーナツをそれぞれ3人で分けたときの数を求めることをおとし、被除数が0や、商が1になる除法の意味を知る。 ・除数が1の除法の意味を知る。	・0をわる場合や1でわる場合の除法の意味や計算のしかたを理解している。	
		(答えが2けたになるわり算)	⑧何十÷1位数の除法の計算のしかたを理解する。	・60÷3のような、何十÷1位数の除法の計算のしかたを10をもとにして考える。 ★まどめアニメ「60÷3の計算のしかた」を使って確認・説明する。	・何十÷1位数の除法の計算ができる。	・簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算のしかたを、既習の計算をもとにして考えている。
			⑨位ごとにわりきれぬ2位数÷1位数の除法の計算のしかたを理解する。	・69÷3のような、2位数÷1位数＝2位数の除法の計算のしかたを位ごとに分けて考える。	・簡単な場合の2位数÷1位数＝2位数の除法の計算ができる。	
2	6 8 9	まどめ	⑩学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまどめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「わり算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・除法の意味や計算のしかたについて、乗法や減法と関連づけながら主体的に考えたり、除法を生活や学習に活用しようとしていたりしている。						

■ 1/2に分けよう

6月中旬（1時間）
p.70

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	7 0		①1/2の大きさを方眼のます目の個数に着目して捉えることで、分数についての理解を深める。	・16個のます目の1/2に色を塗る活動をおとし、形は違っても、ます目の個数に着目すると1/2といえる場合があることを知る。 ・12個のます目の1/2にも色を塗り、16個のます目の1/2とはます目の数が異なることを知る。		・方眼のます目の個数に着目し、1/2の大きさのいろいろな表し方を考えている。

5 長さ

6月中旬（6時間）
p.71～78

◆単元の目標と評価規準

○長さの単位「km」、道のりと距離の意味、及び巻尺について知り、計器を適切に選んで長さを測定する力を身につける。また、長さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 C(1)ア(ア)(イ)、C(1)イ(ア)】

・長さの単位「km」について知り、単位の関係を理解し、長さについておよその見当をつけ計器を適切に選んで測定することができる。＜知・技＞

・測定するものの特徴に着目し、ものさしては測りにくいところの長さの測り方を考えている。＜思・判・表＞

・長さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
3	7 1 5 7 5	(まじやく)	①②巻尺の機能と使い方を理解し、身のまわりのものの長さを巻尺で測定することができる。	・「長さを予想してはかろう!」の活動をしっかきに、教室にあるものの長さを測ることをおとし、30cmものさしや1mものさしては測りにくい長さに関心をもつ。 ・巻尺のしくみ、巻尺を使った測定のしかたや有用性を知る。 ・身のまわりのものの長さを予想してから、巻尺を使って測る。	・巻尺の機能や目盛りのしくみを理解し、目的に応じて巻尺を用いて長さを測定することができる。	・測定するものの特徴に着目し、ものさしては測りにくいところの長さの測り方を考えている。
		(道のりときより)	③道のりと距離の意味、長さの単位「km」と単位の関係を理解する。	・絵地図から長さを求めることをおとし、長さの単位「キロメートル(km)」を知り、1km=1000mを知る。 ・道のりと距離の意味を知る。 ★まどめアニメ「長さの単位 キロメートル」「道のりときより」を使って確認・説明する。	・道のりと距離の意味、長さの単位「km」を知り、1km=1000mの関係を理解している。	
1	7 6	学んだことを使おう	④100mや1kmなどの長さを体感し、長さについての感覚を豊かにする。	・100mや1kmの感覚を身につけるために「100mや1kmを歩こう!」という目的意識から、100mや1kmを歩くのにかかる時間や歩数を調べる。	・長さについての感覚をもち、道のりや距離のおよその見当をつけることができる。	
2	7 7 8 5	まどめ	⑤学習内容の理解を確認し、確実に身につける。 [東京から何軒(キロメートル)?]	・単元のまどめをする。 ・昔の里程標(距離を示した標識)に記されたkmの漢字表記「軒」を知る。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「長さ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・長さの測定に主体的に取り組む、生活や学習に活用しようとしている。

6 表とぼうグラフ

6月下旬～7月上旬（10時間）
p.79～95

◆単元の目標と評価規準

○棒グラフや二次元表について理解し、データを整理する観点に着目し、身のまわりの事象について表やグラフを用いて考察して、見いだしたことを表現する力を身につける。また、データを分析することに進んで関わり、その過程を振り返り、グラフの表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 D(1)ア(ア)(イ)、D(1)イ(ア)、内(8)】

- ・棒グラフや二次元表の特徴について理解し、表したりよみ取ったりすることができる。＜知・技＞
- ・データを整理する観点に着目し、身のまわりの事象について表やグラフを用いて考察して、見いだしたことを表現している。＜思・判・表＞

・データを分析することに進んで関わり、数的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
1	7 9 1 8 2	整理のしかた	①データの分類整理のしかたを理解する。	・「どんな車が多いのかな？」の活動をきっかけに、学校の前の道を通る乗り物の種類や数の記録のしかたに関心をもつ。 ★シミュレーション「交通量調べ」を使って活動する。 ・学校の前の交通量を調べる活動をおとして、落ちや重なりがなく、項目ごとに分類整理するしかたを考える。 ・データを一次元表に整理する。	・落ちや重なりがなく項目ごとに分類整理するしかたや、「その他」の意味を理解している。	・データを分類整理する観点を決め、落ちや重なりがないように調べたり合計欄をもとに確かめたりするなど、誤りの起きにくい方法を工夫している。
5	8 3 1 8 9	ぼうグラフ (ぼうグラフのかき方)	②棒グラフのよみ方を理解する。	・数量の大きさを表すグラフとして、棒グラフのよみ方を知る。 ・棒グラフでは、数量の大きい順に並べて表す場合があることを知る。 ★まどめアニメ「ぼうグラフ」「ぼうグラフのこう目のならべ方」を使って確認・説明する。	・棒グラフで表すと、数量の大小や差などが捉えやすくなることなど、棒グラフの特徴を理解し、よみ取ることができる。	・棒グラフの項目間の関係や1目盛りの大きさなどに着目し、数量の大小や集団のもつ全体的な特徴などを考察している。
			③棒グラフのいろいろな表し方を理解する。	・棒グラフでは、順序性があるものは順序どおりに並べることを知る。 ・棒が横向きの場合や、1目盛りの大きさが1でない場合の棒グラフをよみとる。	・1目盛りの大きさに着目して、棒グラフをよむことができる。	
			【つながるミカタ】	・棒グラフについて、「数の大きさやちがいがひとめでわかるよさを振り返り、身のまわりの事象を棒グラフに表すことにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・棒グラフのかき方を理解し、表すことができる。	
			④棒グラフのかき方を理解する。	・学校で起こったことが調べのデータを棒グラフに表すことをおとして、棒グラフのかき方を知る。 ★シミュレーション「ぼうグラフツール(1)(2)」を使って活動する。		・棒グラフをかくときに、グラフ用紙の目盛りのつけ方や項目の並べ方などを考えている。
			⑤⑥棒グラフに表すときに、目的に合った目盛りのつけ方を考えることができる。	・1目盛りの大きさが1でない場合の棒グラフをかく。また、同じデータを異なる目盛りのつけ方で表した棒グラフを比較して考える。 ★シミュレーション「ぼうグラフツール(3)(4)」を使って活動する。	・1目盛りの大きさに着目して、棒グラフに表すことができる。	
1	9 0 1	くふうした表	⑦二次元表のよみ方、かき方を理解する。	・3年生の3つの組の「お楽しみ会の遊び」の表を1つの表にまとめることをおとして、二次元表のよみ方、かき方を知る。	・2つの観点からデータを分類整理し、簡単な二次元表に表したりよんだりすることができる。	
1	9 2 3	学んだことを使おう	⑧目的に応じて、複数の棒グラフを組み合わせるなど、棒グラフに表すときの工夫のしかたについて考えることができる。	・「お楽しみ会の遊びを決めよう！」という目的意識から、2年生の「お楽しみ会の遊び」の二次元表をよみとり、3年生の棒グラフに積み重ねて表し、人数の合計などをよみとる。 ・3年生と2年生の棒グラフを並べて表し、人数の違いなどをよみとる。 ・棒グラフを根拠に、お楽しみ会ではどの遊びをすどよいか話し合う。 ★シミュレーション「ぼうグラフツール(5)(6)」を使って活動する。	・複数の棒グラフを組み合わせたグラフを表したりよんだりすることができる。	・複数の棒グラフを組み合わせたグラフについて、その表し方の目的を考えている。
2	9 4 5	まどめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまどめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「表とぼうグラフ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・データをわかりやすく整理し表や棒グラフに表したり、見いだしたことを表現したりすることについて、目的意識をもって主体的に取り組んでいる。

◎ ふく習②

頁	学習活動
9 6	・「かけ算のきまり」「時ごとと時間」「たし算とひき算」の復習をする。 ・単元7「あまりのあるわり算」に関わる既習事項を確認する。

7 あまりのあるわり算

7月上旬～中旬（9時間）
p.97～107

◆単元の目標と評価標準

○あまりのある除法の意味や式について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考えたり、計算の確かめのしかたを考えたりする力を身につける。また、除法について考えることに進んで関わり、除法を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)、A(4)イ(イ)(イ)(イ)】

- ・あまりのある除法の意味や式について理解し、除数と商がともに1位数である除法の計算が確実にできる。<知・技>
- ・数量の關係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをししたりしている。<思・判・表>
- ・除法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。<態度>

◆指導計画と観点別評価標準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
6	97 100 104	(答えのたしかめ) (あまりはどうする)	①あまりのある除法(包含除)の意味、除法の式について理解する。	・「5こずつふくろに入れよう!」の活動をきっかけに、既習の除法を振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもち、 ・17個を5個ずつ分けると3つに分けられて2個あまる場面を表すことをとおして、あまりのある除法(包含除)の意味と式を知る。 ★まどめアニメ「あまりのあるわり算」を使って確認・説明する。	・あまりのある除法の意味や計算のしかたを理解している。	・あまりのある除法の場面を具体物や図などを用いて表現するとともに、除法と乗法や減法との関係などに着目して計算のしかたを考えている。
			②除法のあまりの大きさを理解する。	・あめを4個ずつ袋に入れる場面で、あまりはいつも除数より小さくなるようにすることを。 ★まどめアニメ「わる数とあまりの関係」を使って確認・説明する。	・除法のあまりの意味や、あまりは除数より小さいことを理解している。	
			③あまりのある除法(等分除)の意味を理解し、除数と商が1位数のあまりのある除法の計算ができる。	・27個のクッキーを4人で同じ数ずつ分ける場面(等分除)で、1人分が何個になって何個あまるかを求める。	・等分除の場合の、あまりのある除法の意味を理解している。また、除数と商が1位数のあまりのある除法の計算ができる。	
			[つながるミカタ]	・除法を用いる場合を統合的に捉え、「あまりがあってもなくても、九九を使って」答えが求められたことを振り返るとともに、除法と乗法の間にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・あまりのある除法の答えの確かめの式を理解し、用いることができる。	
			④あまりのある除法の答えの確かめの式を理解し、用いることができる。	・20個のミニトマトを3個ずつ袋に入れる場面で、除数、被除数、あまりの関係を考え、あまりのある除法の答えの確かめの式を知る。		
			⑤除法のあまりの処理(あまりを加える場合)について考えることができる。	・27個のボールを6個ずつ箱に入れるときの箱の数を考える問題で、除法のあまりの処理のしかたを考える。		・具体的な問題場面で、除法のあまりの意味について考え、処理のしかたを考えている。
1	105 206 75	学んだことを使おう	⑦日常生活の場面と関連づけて、あまりのある除法の計算を活用することができる。*	・「どの列にならぶのかな?」という目的意識から、白の列の番号はどれも4でわりきれぬ数であることをもとに、ほかの列の番号についても調べ、除法のあまりに着目してきまりを説明する。		・各列に並ぶ番号について見いだしたきまりを、除法のあまりに着目して説明している。
		まどめ	⑧学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「あまりのあるわり算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・除法の計算のしかたや答えの確かめのしかたについて、乗法や減法と関連づけながら主体的に考えたり、除法を生活や学習に活用しようとしていたりする。						

■ なみ木道

7月中旬（2時間）
p.108～109

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	108 109		①②木の本数と間の数の關係の問題(植木算)を、図や式などを用いて筋道を立てて考えることができる。			・木の本数と間の数の關係の問題(植木算)を、図や式などを用いて筋道を立てて考えている。

8 10000より大きい数

9月上旬～中旬（8時間）
p.110～121

◆単元の目標と評価規準

○万の単位について知り、十進位取り記数法による数の表し方及び10倍、100倍、1000倍、1/10にした大きさの数について理解し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を考える力を身につける。また、整数の表し方に進んで関わり、その過程を振り返り、十進数としての表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)(イ)(ウ)、A(1)イ(ア)、内(1)】

・万の単位について知り、十進位取り記数法による数の表し方及び10倍、100倍、1000倍、1/10にした大きさの数について理解し、表すことができる。＜知・技＞

・数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を考え、日常生活に生かしている。＜思・判・表＞

・数を表すことに進んで関わり、数的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
7	1105119	万の位 (一億)	①10万未満の数のよみ方、表し方、5位数の構成と位取りのしくみ(一万の位)を理解する。	・「入場けんは何まいかな？」の活動をきっかけに、バスケットボールとサッカーの入場券の枚数を調べる活動をとおして、既習の範囲を超える数を数えたり表したりすることに関心をもつ。 ・5位数の十進位取り記数法によるよみ方、表し方を知る。 ・一万の位を知る。 ★まとめアニメ「一万の位」を使って確認・説明する。	・一万の位までの数の構成と位取りのしくみを理解し、表すことができる。	・十進位取り記数法のしくみをもとに、千万の位までの数の表し方や比べ方、相対的な大きさを考えている。
			②1億未満の数のよみ方、表し方、数の構成と位取りのしくみ(十万の位、百万の位、千万の位)を理解する。	・全国の学校に関するデータに示された数をよむこととおして、千万の位までの数のよみ方、表し方、数の構成を知る。 ★まとめアニメ「十万の位、百万の位、千万の位」を使って確認・説明する。	・千万の位までの数の構成と位取りのしくみを理解し、表すことができる。	
			③「不等号」「等号」の意味と用い方、1億未満の数の大小について理解する。	・「不等号」「等号」の意味を知る。 ・1億未満の数の大小を不等号、等号を用いて表す。 ★まとめアニメ「不等号と等号」を使って確認・説明する。	・「不等号」「等号」の意味を知り、千万の位までの数の大小について理解し、不等号や等号を用いて表すことができる。	
			[つながるミカタ]	・1万より大きい数の構成や位取りのしくみを振り返り、1万までの数と「同じしくみ」になっていることに着目し、数の順序や系列、相対的な大きさなど、ほかの見方にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・「数直線」の用語を知り、数直線で数の位置、順序、系列を理解している。	
			④数直線をもとに、5位数の順序について理解する。	・「数直線」の意味を知る。 ・一万の位までの数について、数直線に表された数をよんだり、数直線上に数を表したりする。		
			⑤数の相対的な大きさについて理解する。 1億について理解する。	・120000が10000や1000のいくつ分かを考える。 ・数直線の目盛りが表す数を調べることをおとして、1億の大きさや、よみ方、書き方を知る。 ★まとめアニメ「一億」を使って確認・説明する。	・数の相対的な大きさを理解している。 ・1億のよみ方、書き方を理解している。	
		(10倍の数や10でわった数)	⑥10倍の大きさの数と、その表し方を理解する。	・20を10倍するとどんな数になるかを考える。 ・25を10倍するとどんな数になるかを考え、その表し方をまとめる。 ★まとめアニメ「10倍の数」を使って確認・説明する。	・10倍の大きさの数と、その表し方を理解している。	・数のまとまりに着目し、ある数と、10倍、100倍、1000倍、10でわった大きさの数との関係について考えている。
			⑦100倍、1000倍の大きさの数や、10でわった大きさの数と、その表し方を理解する。	・25を100倍、1000倍するとどんな数になるかを考え、その表し方をまとめる。 ・200を10でわるとどんな数になるかを考え、その表し方をまとめる。 ★まとめアニメ「10でわった数」を使って確認・説明する。	・100倍、1000倍の大きさの数や、10でわった大きさの数と、その表し方を理解している。	
1	12015	まとめ	⑧学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「10000より大きい数」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・既習の数の見方や表し方などをもとに、大きな数のしくみについて主体的に考えたり、万の単位が使われている数を身のまわりから見つけ、その大きさを捉えたりしようとしている。						

9 円と球

9月中旬～下旬（10時間）
p.122～135

◆単元の目標と評価標準

○円とその中心、半径、直径について理解し、図形の性質を見いだしたり構成のしかたを考えたりする力を身につけるとともに、円に関連して、球についても理解する。また、円や球に進んで関わり、身のまわりのものの形を円や球として捉えるなど、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 B(1)ア(ウ)、B(1)イ(ア)】

- ・円とその中心、半径、直径について理解し、円を作図したり長さを写し取ったりする道具としてコンパスを用いることができる。また、円に関連して、球についても理解している。＜知・技＞
- ・円の中心、半径、直径に着目し、構成のしかたを考えるとともに、図形の性質を見だし、身のまわりのものの形を円や球として捉えている。＜思・判・表＞
- ・円や球に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価標準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
6	1 2 2 1 2 9	円	①②円の意味、性質、円の中心、半径を理解する。	・「どんなならび方をすればいいかな?」の活動をきっかけに、玉入れの的に対してどのように並ぶと公平になるのかに関心をもつ。 ・的になる点から等距離の点をいくつもかく活動をおとして、円や、円の中心、半径を知る。 ★まとめアニメ「円」「円の中心、半径」を使って確認・説明する。	・円の意味、性質、円の中の中心、半径を理解している。	・円の半径や直径を観察することをおして、それらの性質を見いだしている。
			③円の直径を理解する。	・半径の長さを調べるために円の中心を見つめる活動をおとして、円の直径を知る。 ★まとめアニメ「円の直径」を使って確認・説明する。	・円の直径の意味や、直径と半径の関係について理解している。	
			④直径の性質を理解する。	・円の中にかかれた直線の長さを比べることをおとして、直径が円の中でいちばん長い直線になることを知る。	・直径が円の中でいちばん長い直線になることを理解している。	
			⑤コンパスの使い方を理解し、円の作図ができる。	・コンパスを使った円のかき方を知り、コンパスを使って円をかく。 ★動画「円のかき方」を見て確認する。	・コンパスの使い方を理解し、円を作図することができる。	
			⑥コンパスの機能を理解する。	・線の長さを比べることをおとして、コンパスには長さを写し取る機能があることを知る。 ★動画「長さを写し取り方」を見て確認する。	・コンパスには長さを写し取る機能があることを理解し、線の長さを写し取って比べることができる。	
1	1 3 0 1 3 1	球	[つながるミカタ]	・円とそれ以外の丸い形を弁別する観点として、「中心からの長さがどこも同じ」という見方に着目したことを振り返り、円に見える立体図形にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・球の意味、性質、球の中の中心、半径、直径を理解している。	・球を観察したり、球を平面で切ったときにできる円について考察したりすることをおして、それらの性質を見いだしている。
			⑦球の意味、性質、球の中心、半径、直径を理解する。	・ボールなどのさまざまな球の特徴を調べ、球について知る。 ・球の中心、半径、直径を知り、球の直径の測り方を考える。 ★まとめアニメ「球」「球の半径、直径」を使って確認・説明する。		
1	1 3 2 3 5	学んだことを使う	⑧日常生活の場面にコンパスを活用し、その機能と有用性について理解を深める。	・「コンパスで地図を調べよう!」という目的意識から、地図上で、ある地点から1kmの範囲や2地点間のおよその距離などをコンパスを使って調べる。	・コンパスを使って、地図上のある地点から1kmのところや、ある地点間のおよその距離を調べることができる。	
2	1 3 4 5	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身に付ける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「円と球」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[円さがし、球さがし]	・身のまわりから円や球の形のものを探す。		
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。						
・円の性質を調べたり、コンパスを使って作図したりすることに主体的に取り組むとともに、身のまわりから円や球を見つけようとしたり、円を用いた模様作りなどをとおして円の美しさを感じたりしている。						

● かけ算とわり算の図

10月上旬（2時間）
p.136～139

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	1 3 6 1 1 3 9		①乗法や除法の数直線の見方や用い方を理解する。	・15個のいちごを1人に5個ずつ3人に配る場面、テープ図と式を関連づけて捉え、乗法と除法の数直線の見方を知る。 ・10円のあめを4個買うときの代金を求める式が 10×4 になる理由を、数直線を用いて説明する。		・乗法と除法の相互関係をもとに、数直線の見方やかき方を考えている。
			②乗法や除法の数直線のかき方や用い方を理解する。	・1個30円のチョコレートで3個買う場面で、乗法の数直線のかき方を知る。 ・18個のあめを3人で等分する場面で、除法の数直線のかき方を知る。	乗法、除法の数直線のかき方を理解し、問題場面を数直線に表すことができる。	
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・図を用いると場面や数量の関係が捉えやすくなることに気づき生活や学習に活用しようとしている。						

■ 表計算ソフトにちょうせん「いろいろな式を考えよう!」

	頁	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)
1	1 5 2	・表計算ソフトを使った加法、減法、乗法の計算のしかたを知り、 7×6 の答えを求める式をいろいろ考えて、表計算ソフトに入力する。また、表計算ソフトを使って九九表をつくる。
		★表計算ソフト教材「いろいろな式を考えよう!」を使って活動する。

<下巻>

10 かけ算の筆算

10月上旬～中旬（11時間）
p.4～19

◆単元の目標と評価規準

○2位数や3位数に1位数をかける乗法について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、乗法の計算のしかたを考えることに進んで関わり、その過程を振り返り、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(3)ア(ア)イ、A(3)イ(ア)、内(2)】

- ・2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることや、その筆算のしかたについて理解し、乗法の計算が確実にできる。<知・技>
- ・数量の関係に着目し、計算のしかたを考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。<思・判・表>
- ・乗法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。<態度>

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
9	4 1 1 7	(2けた×1けたの計算)	①2位数×1位数の乗法の計算のしかたを理解する。 ※(問題解決力モデル) 本時の活動をとおして、問題解決の進め方を学習する。	・「3まいで何円かな?」の活動をきっかけに、20×3の計算のしかたを振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもつ。 ・23×3のような、2位数×1位数=2位数で繰り上がりがない乗法の計算のしかたを考える。また、自他の考えを比較し、考え方のよさを振り返ってまとめる。(p.16～17の[友だちのノートを見てみよう]も扱う。)	・2位数×1位数の乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることを理解している。	・2位数×1位数の乗法の計算のしかたを、既習の計算をもとに図や式などを用いて考えている。
		②2位数×1位数の筆算のしかたを理解する。	・23×3のような、2位数×1位数=2位数で繰り上がりがない乗法の筆算のしかたを考える。 ★まどめアニメ「23×3の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・2位数×1位数の乗法の筆算形式を知り、筆算ができる。		
		③2位数×1位数で十の位に繰り上がる乗法の計算ができる。	・26×3のような、2位数×1位数=2位数で十の位へ繰り上がりのある乗法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まどめアニメ「26×3の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・2位数×1位数で十の位に繰り上がる乗法の筆算ができる。		
		④2位数×1位数で百の位に繰り上がる乗法の計算や、2位数×1位数で途中の計算に0が出てくる乗法の計算ができる。	・42×3や65×3や49×7のような、2位数×1位数=3位数の乗法の計算のしかたを考える。 ★まどめアニメ「42×3の筆算のしかた」を使って確認・説明する。 ・63×8や47×5のような、2位数×1位数=3位数で途中の計算に0が出てくる乗法の計算のしかたを考える。	・2位数×1位数で百の位に繰り上がる乗法や、2位数×1位数で途中の計算に0が出てくる乗法の筆算ができる。		
		[つながるミカタ]	・2位数×1位数の計算のしかたについて、「数を分ける」という見方を振り返り、数が大きくなった場合にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・3位数×1位数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・3位数×1位数の乗法の計算のしかたを、被乗数が2位数の場合の計算をもとに図や式などを用いて考えている。	
		(3けた×1けたの計算)	⑤3位数×1位数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・312×3のような、3位数×1位数=3位数で繰り上がりがない乗法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まどめアニメ「312×3の筆算のしかた」を使って確認・説明する。		
		⑥3位数×1位数の計算で繰り上がりのある乗法の計算ができる。	・253×3のような、3位数×1位数=3位数で繰り上がりのある乗法の計算のしかたを考える。	・3位数×1位数の計算で繰り上がりのある乗法の筆算ができる。		
		⑦3位数×1位数で千の位に繰り上がる乗法の計算ができる。	・423×3のような、3位数×1位数=4位数の乗法の計算のしかたを考える。	・3位数×1位数で千の位に繰り上がる乗法の筆算ができる。		
		⑧3位数×1位数=4位数で空位がある乗法の計算ができる。	・302×8のような、3位数×1位数=4位数で空位がある乗法の計算のしかたを考える。	・3位数×1位数=4位数で空位がある乗法の筆算ができる。		
		(かけ算の暗算)	[4けたのかけ算にちょうせん!]* ⑨乗法の暗算ができる。	・3210×4など、4位数×1位数の乗法の問題を作って、計算のしかたを考える。 ・23×4のような、2位数×1位数の暗算のしかたを考える。 ・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。	・2位数×1位数の乗法の暗算ができる。	
2	1 8 5	まとめ	⑩学習内容の理解を確認し、確実に身につける。 [かかれた数字]	・単元のまとめをする。 ・2位数×1位数、3位数×1位数の虫食い算に取り組む。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「かけ算の筆算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
		【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・乗法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに主体的に考えたり、乗法を生活や学習に活用しようとしていたりしている。				

11 重さ

10月下旬～11月上旬（10時間）
p.20～34

◆単元の目標と評価標準

○重さの単位「g, kg」について知り、測定の意味を理解し、単位を適切に選択して重さを測定する力を身につけるとともに、長さ、かさ、重さの単位の関係を統合的に考察する力を身につける。また、重さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 C(1)ア(ア)(イ)、C(1)イ(ア)、内(7)】

- ・重さの単位「g, kg」について知り、測定の意味と単位の関係を理解し、重さについておよその見当をつけ単位を適切に選択して測定することができる。＜知・技＞
- ・身のまわりのものの特徴に着目し、単位の関係を統合的に考察している。＜思・判・表＞
- ・重さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価標準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
6	20129	重さくらべ	①②重さの意味、重さの比べ方、重さの単位「g」を理解する。	・「どちらが重いかな?」の活動をきっかけに、スポンジ、はさみ、電池の重さを比べることに興味をもつ。 ・ものの重さをつみ木を使って比べる活動をととして、重さの比較・測定のしかたや意味について考える。 ・重さの単位「グラム(g)」を知る。	・重さの単位「g」と測定の意味を理解している。	・重さの比較や測定について、長さやかさの場合をもとにして、基準とする大きさを決めて数値化するしかたを考えている。
		(はかり)	③はかりの機能と使い方を理解する。	・はかりを使った測定のしかたや、目盛りのよみ方について知る。 ★動画「はかりの使い方」を見て確認する。	・はかりの目盛りのしくみを理解し、はかりを使って重さを測定することができる。	
			④重さの単位「kg」と単位の関係を理解する。	・ランドセルの重さを量ることをおとして、重さの単位「キログラム(kg)」を知り、1kg=1000gを知る。 ★まとめアニメ「重さの単位 キログラム」を使って確認・説明する。	・重さの単位「kg」を知り、1kg=1000gの関係を理解している。	
			⑤身のまわりのものの重さについて、およその見当をつけ、測定することができる。	・ものの重さに合ったはかりを選択して、身のまわりのいろいろなものの重さを量る。 ・本や砂などの具体物を使って、1kgの重さをつくる。	・身のまわりのものの重さについておよその見当をつけ、はかりを使って測定することができる。	
1	30131	(はかり方のくふう)	⑥重さについても加法性が成り立つことを理解する。	・かごにのせたみかんの重さの求め方を考えることをおとして、重さは加減計算ができることを知る。	・重さの加法性について理解し、重さの加減計算ができる。	
		単位のしくみ	[つながるミカタ] ⑦接頭語「キロ(k)」「ミリ(m)」の意味を知り、重さ、長さ、かさの単位の関係を統合的に理解する。 重さの単位「トン(t)」を理解する。	・重さの表し方について、「単位を使って、そのいくつ分を表す」という見方を振り返り、長さやかさの表し方と統合的に捉えるとともに、接頭語にも共通点があることに着目し、次の問題解決につなげる。 ・今まで学習してきた重さ、長さ、かさの単位を表に整理し、接頭語「k(キロ)」「m(ミリ)」の意味や単位の関係について考える。 ・重さの単位「トン(t)」を知り、1t=1000kgを知る。 ★まとめアニメ「重さの単位 トン」を使って確認・説明する。	・重さの単位「t」を知り、1t=1000kgの関係を理解している。	・重さ、長さ、かさの単位の共通性に気づき、「k(キロ)」「m(ミリ)」などの接頭語が表す倍の関係などに気づき、新しい単位に出合ったときも類推して量の大きさを考えている。
1	32	学んだことを使おう	⑧身のまわりのものの大きさについての感覚をもち、メートル法の単位のしくみをもとに整理することができる。	・「単位の図かんをつくらう!」という目的意識から、いろいろな重さ、長さ、かさのものをを見つけたり、適切な計器を使って測定したりして、接頭語に着目して整理してまとめる。	・いろいろな重さ、長さ、かさのものをを見つけたり測定したりして、メートル法の単位のしくみをもとに整理することができる。	
		まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実身に付ける。 [重さばかりかな]	・単元のまとめをする。 ・体重計を使って、体勢を変えても重さは変わらないことを体験する。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「重さ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
2	345					
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。						
・重さの測定に主体的に取り組む、生活や学習に活用しようとしている。また、「m」「c」「k」などの接頭語が、長さや重さなどに共通に用いられていることに気づき、メートル法の単位のしくみを考えようとしている。						

◎ ふく習③

頁	学習活動
35	・「長さ」「表とばうグラフ」「あまりのあるわり算」「10000より大きい数」の復習をする。

12 分数

11月中旬～下旬（11時間）
p.36～49

◆単元の目標と評価規準

○分数の意味と表し方、及び簡単な場合について分数の加法、減法の意味を理解し、分数の大きさを比べたり、計算のしかたを考えたりする力を身につける。また、分数に進んで関わり、そのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(6)ア(ア)(イ)(ウ)、A(6)イ(ア)】

・等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表す数としての分数の意味と表し方、及び分数は単位分数のいくつ分で表せることを理解するとともに、簡単な場合について分数の加法、減法の意味を理解し、分数の大きさを比べたり計算したりすることができる。＜知・技＞

・数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えているとともに、分数を日常生活に生かしている。＜思・判・表＞

・分数に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
5	3 6 1 4 3	分数の表し方	①測定したときの量の大きさを表す分数(量分数)について理解する。	・「どちらが4等分かな？」の活動をきっかけに、4等分や1/4の意味を振り返り、等分した大きさの表し方に関心をもつ。 ・もとの長さの1/4と対比し、1mを4等分した1つ分を1/4mということを知る。 ★まどめアニメ「四分の一メートルの意味」を使って確認・説明する。	・分割分数と対比して、測定したときの量の大きさを表す分数(量分数)の意味を理解している。	・量分数、及び単位分数のいくつ分として表す分数の意味や大きさについて、数直線や図に表すなどして考えている。
			②量分数の表し方を理解し、「分母」「分子」の意味を理解する。	・1mを3等分した2つ分の長さを2/3mということを知り、分数の表し方を知る。 ・「分母」と「分子」の意味を知る。 ★まどめアニメ「分数の表し方」を使って確認・説明する。	・量分数の表し方を理解し、長さを分数で表すことができる。	
			③かさを分数で表すこととおして、量分数の意味と表し方について理解を深める。	・1Lを5等分した3つ分のかさを3/5Lということを知り、分母と分子が表す大きさについてまとめる。 ★まどめアニメ「分母と分子の意味」を使って確認・説明する。	・分母と分子が表す大きさについて理解を深め、かさを分数で表すことができる。	
			④単位分数をもとにした分数の大きさを理解する。	・1/5、2/5、…を数直線上に表すこととおして、分母と分子が同じ数のときは1になることを知る。 ★まどめアニメ「分母と分子が同じ数の分数」を使って確認・説明する。	・単位分数をもとにした分数の意味と大きさを理解し、分母と分子が同じ数のときは1になることを理解している。	
			⑤同分母の分数の大小について理解する。また、1より大きい分数があることを理解する。	・7/10と8/10のような、同分母の分数の大小を比べる。 ・1/10の11個分、12個分の大きさを知り、11/10、12/10ということを知る。	・同分母の分数の大小について理解している。また、1より大きい分数があることを理解している。	
3	4 4 1 4 6	分数のたし算、ひき算	【つながるミカタ】	・「単位分数をもとにして、その何こ分」という見方に着目し、分数の大小を比較したことを振り返り、加法や減法にも関心を広げて、次の問題解決につなげる。	・同分母の分数の加法の意味を理解し、真分数の加法の計算ができる。	・同分母の分数の加法、減法の計算のしかたを、既習の計算や分数の意味をもとに図や式などを用いて考えている。
			⑥⑦簡単な分数の加法の計算のしかたを理解する。	・1/5+2/5のような、同分母の真分数の加法の計算のしかたを考える。 ・7/10+3/10=10/10のような、和が1になる加法の計算のしかたを考える。		
			⑧簡単な分数の減法の計算のしかたを理解する。	・4/5-2/5のような、同分母の真分数の減法の計算のしかたを考える。 ・1-3/10=7/10のような、1から真分数をひく減法の計算のしかたを考える。	・同分母の分数の減法の意味を理解し、真分数の減法の計算ができる。	
1	4 7	学んだことを使おう	⑨等幅の直線を使ってテープに分数の目盛りをつける活動とおして、量分数の意味について理解を深める。	・「分数ものさしを作ろう1」という目的意識から、同じ幅に並んだ直線を使って1mの長さのテープに1/5mずつや1/6mずつの目盛りをつける方法を考える。		・同じ幅に並んだ線を使って1mの長さのテープに分数の目盛りをつけるしかたについて、分数の意味と表し方をもとに考えている。
			【もっとやってみよう】*	・1/2m、1/3m、1/4m、…の紙テープを順に並べ、単位分数の分母が大きくなると1つ分の大きさが小さくなることに着目する。		
2	4 8 1 4 9	まとめ	⑩学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「分数」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			【つながるミカタプラス】	・「分子が1の分数をもとにする」という見方をすると、分数の計算を整数の計算に帰着して考えられたことを振り返るとともに、「もとにする」という見方は1万や1kmのまとまりで計算する場合にも用いてきたことに着目し、共通する見方として統合する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・既習の数の見方や表し方などをもとに、分数の意味と表し方、計算のしかたについて主体的に考えたり、日常生活の場面などで大きさを分数を用いて表したりしようとしている。

13 三角形

11月下旬～12月上旬（10時間）
p.50～63

◆単元の目標と評価標準

○二等辺三角形、正三角形について理解し、図形の性質を見いだしたり構成のしかたを考えたりする力を身につけるとともに、基本的な図形と関連して角について知る。また、図形の特徴を見いだすことに進んで関わり、身のまわりのものの形を二等辺三角形、正三角形として捉えるなど、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 B(1)ア(7)イ、イ、B(1)イ(ア)、内(6)】

- ・二等辺三角形、正三角形について理解し、作図などをおしてそれらの関係に次第に着目することができる。また、基本的な図形と関連して角について知っている。＜知・技＞
- ・図形を構成する要素に着目し、構成のしかたを考えるとともに、図形の性質を見だし、身のまわりのものの形を図形として捉えている。＜思・判・表＞

- ・二等辺三角形、正三角形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価標準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
5	5 0 1 5 7	いろいろな三角形	①②二等辺三角形、正三角形の意味を理解する。	・「どんな三角形ができるかな？」の活動をきっかけに、4種類のストローを使ってできた三角形に関心をもつ。 ・4種類のストローを使っていろいろな三角形を作り、辺の長さに着目して分類し、二等辺三角形、正三角形について知る。 ★まどめアニメ「二等辺三角形」「正三角形」を使って確認・説明する。	・二等辺三角形、正三角形の意味を理解している。	・三角形について、辺の長さの相等関係に着目して分類し、それらの特徴を見いだしている。
		(二等辺三角形、正三角形のかき方)	[二等辺三角形、正三角形のかき方]	・身のまわりから二等辺三角形や正三角形のものを見つかる。	・ドットの図を使って、二等辺三角形を作図することができる。	・二等辺三角形や正三角形の定義をもとに、それらの図形の作図のしかたを考えている。
			③二等辺三角形の性質と構成要素について理解を深める。	・ドットの図を使って、あと1点をどこにとると二等辺三角形になるかを考え、作図する。		
			④二等辺三角形、正三角形の作図のしかたを理解する。	・定規とコンパスを使って、二等辺三角形の作図のしかたを考える。 ★動画「二等辺三角形のかき方」を見て確認する。 ・二等辺三角形の作図のしかたをもとに、正三角形の作図のしかたを考える。	・定規とコンパスを使って、二等辺三角形、正三角形を作図することができる。	
2	5 8 1 6 0	(三角形づくり)	⑤二等辺三角形、正三角形の辺の長さについて理解を深める。	・円の半径を使って三角形を作図し、二等辺三角形や正三角形ができることを説明する。		・円の半径を使った二等辺三角形や正三角形の構成のしかたについて、図形の性質をもとに説明している。
			[おり紙で三角形を作ろう]	・折り紙を折って二等辺三角形や正三角形を作り、その方法について説明する。		
		角	[つながらミカタ]	・三角形を弁別する観点として、「辺の長さ」に着目したことを振り返り、三角形の「かどの形」にも着目することに関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・角の意味を理解し、2つの角の大きさを重ねるなどして比べることができる。	・図形を構成する要素として角の大きさに着目し、二等辺三角形や正三角形の角の大きさの比べ方を考えている。
1	6 1		⑥図形の角の意味、性質を理解する。	・三角定規のかどの大きさを比べることをとおして、角の意味、角の大きさについて知る。 ★まどめアニメ「角」「角の大きさ」を使って確認・説明する。		
			⑦二等辺三角形、正三角形の角の相等について理解する。	・角を重ね合わせて比べることをおして、二等辺三角形は2つの角の大きさが等しく、正三角形は3つの角の大きさが等しくなっていることを知る。 ★まどめアニメ「二等辺三角形、正三角形の角」を使って確認・説明する。	・二等辺三角形では2つの角の大きさが等しく、正三角形では3つの角の大きさが等しいことを理解している。	
2	6 2 3	学んだことを使おう	⑧敷き詰め模様の構成。観察をとおして、平面図形の広がりや図形の美しさを捉え、図形についての感覚を豊かにする。	・「三角形でもようを作ろう!」という目的意識から、二等辺三角形や正三角形を敷き詰めた模様を作る。		・二等辺三角形や正三角形を敷き詰めた図の中にほかの図形を認めたり、平面図形の広がりや図形の美しさに気づいたりして表現している。
			[三角定規で形を作ろう]	・同じ大きさの三角定規を何枚か組み合わせて、扇形や大きな正三角形を作る方法を考える。		
2	6 2 3	まどめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまどめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「三角形」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・二等辺三角形、正三角形の特徴を調べたり、構成したりすることに主体的に取り組むとともに、身のまわりから図形を見つけようとしたり、二等辺三角形や正三角形を敷き詰める活動をおして、平面図形の広がりや図形の美しさを感じたりしている。

14 □を使った式と図

12月中旬（6時間）
p.64～72

◆単元の目標と評価規準

○数量の関係を表す式について理解し、未知の数量を□として式に表したり、式と図を関連づけて式をよんだりする力を身につける。また、□を用いた式に進んで関わり、そのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(7)ア(ア)、A(7)イ(ア)】

- ・数量の関係を表す式について理解し、未知の数量を□として式に表したり、□に数をあてはめて調べたりすることができる。<知・技>
- ・数量の關係に着目し、數量の關係を圖や式を用いて簡潔に表したり、式と圖を関連づけて式をよんだりしている。<思・判・表>
- ・數量の關係を表す式に進んで関わり、數學的に表現・處理したことを振り返り、數理的な處理のよさに気づき生活や學習に活用しようとしている。<態度>

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
4	6 4 1 7 0		①加法や減法の場面において、未知の数量を□として式に表し、□にあてはまる数を求めることができる。	・「お話を式に表そう!」の活動をきっかけに、クリスマスのかざり作りの場面を線分図や式に表すことに興味をもつ。 ・線分図や言葉の式をもとに、未知の数量を□として減法の式に表し、□にあてはまる数の求め方を考える。	・未知の数量を□とすることにより、数量の関係を式で表せることを理解し、加法や減法の場面において、□を用いて式に表し、□にあてはまる数を求めることができる。	・□を用いた式と図を関連づけて、式が表している場面の意味をよみ取っている。
			②□にあてはまる数を求めることをおとして、加法と減法の相互関係を理解する。	・加法や減法の場面を□を用いた式に表し、図をもとに□にあてはまる数を求め、加法と減法の相互関係についてまとめる。 ★まとめアニメ「たし算とひき算の関係」を使って確認・説明する。	・加法と減法の相互関係を理解している。	
			[つながるミカタ]	・未知の数量があるときも「お話のとおり」に式に表せる」という□を用いるよさや、「場面を表すときにも使う」という式の役割について振り返り、次の問題解決につなげる。	・乗法や除法の場面において、□を用いて式に表し、□にあてはまる数を求めることができる。	
			③乗法と除法の場面において、未知の数量を□として式に表し、□にあてはまる数を求めることができる。	・おもりの数を求める場面や、数直線や言葉の式をもとに、未知の数量を□として乗法の式に表し、□にあてはまる数の求め方を考える。		
			④□にあてはまる数を求めることをおとして、乗法と除法の相互関係を理解する。	・乗法や除法の場面を□を用いた式に表し、図をもとに□にあてはまる数を求め、乗法と除法の相互関係についてまとめる。 ★まとめアニメ「かけ算とわり算の関係」を使って確認・説明する。	・乗法と除法の相互関係を理解している。	
2	7 2 1 5	まとめ	⑤学習内容の理解を確認し、確実に身につける。 [何算でもとめられるかな?]	・単元のまとめをする。 ・ $12 - \square = 8$ の□は $12 - 8$ の減法で、 $18 \div \square = 6$ の□は $18 \div 6$ の除法で求められることを、それぞれ図を用いて考える。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「□を使った式と図」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。						
・未知の数量を□として表すことで、問題場面どおり立式できるように気づき、式に表したり式をよんだりすることに主体的に取り組もうとしている。						

■ タイルは何まい

12月下旬（1時間）
p.73

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	7 3		①正三角形の敷き詰め模様からほかの図形を見だし、その図形をまともとして捉え、乗法の式を用いて正三角形の枚数を表すことができる。	・規則的に並んだ正三角形のタイルの枚数の求め方を、8×3、4×6、…など、いろいろな式で考える。		・規則的に並んだタイルの枚数を工夫して数えることをとおして、図形、数、式のもつ多様な見方を見いだしている。

15 小数

1月上旬～下旬（11時間）
p.74～89

◆単元の目標と評価標準

○小数の意味と表し方、及び小数の加法、減法の意味を理解し、小数の大きさを比べたり、計算のしかたを考えたりする力を身につける。また、小数に進んで関わり、そのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(5)ア(ア)、イ、A(5)イ(ア)、内(5)】

- ・端数部分の大きさを表す数としての小数の意味と表し方を理解するとともに、小数の加法、減法の意味を理解し、小数の大きさを比べたり計算したりすることができる。＜知・技＞
- ・数のまとまりに着目し、小数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、小数を日常生活に生かしている。＜思・判・表＞
- ・小数に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価標準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
5	74～81	小数の表し方	①小数の意味と表し方、「小数」「小数点」「整数」の意味を理解する。	・「水のかさは何リかな？」の活動をきっかけに、1Lに満たない端数部分のかさの表し方に関心をもつ。 ・1Lの1/10の大きさを0.1Lということを知り、小数の意味、表し方を知る。 ・「小数」「小数点」「整数」の意味を知る。 ★まどめアニメ「れい点ーリットル」「小数」を使って確認・説明する。	・小数の意味と表し方、構成、及び整数の意味を理解している。	・小数の意味や大きさ、小数と整数、分数の関係について、数直線や図に表すなどして考えている。
			[小数さがし]	・身のまわりから小数で表されているものを見つける。		
			②長さを小数で表すことをおし、小数の構成や表し方についての理解を深める。	・3cm7mmを3.7cmと表すように、複名数で表された長さを小数を用いて単名数で表すしかたを考える。	・複名数で表された長さなどの量を、小数を用いて単名数で表すことができる。	
			③小数の構成、相対的な大きさ、小数の位取り(1/10の位)、小数と整数の関係について理解する。	・数直線上に小数を表したり、2.4と2.4の関係を調べたりする。 ・小数の位取り(1/10の位、小数第一位)の意味を知る。 ★まどめアニメ「1/10の位(小数第一位)」を使って確認・説明する。 ・0.1、1、10、100の関係を調べ、10倍、1/10の関係になっていることを知る。	・十進位取り記数法をもとに小数の位取り(1/10の位または小数第一位)を理解するとともに、小数と整数の関係について理解している。	
			④数の大小比較をとおして、小数と整数の関係について理解を深める。	・2.8と3の大小比較のしかたを考え、説明する。	・小数と整数の大小を理解している。	
			⑤小数と分数の関係について理解を深める。	・小数と分数を1つの数直線上に表す。 ・0.6と7/10の大小比較のしかたを考え、説明する。	・小数と分数の大小を理解している。	
5	82～87	小数のたし算、ひき算	[つながるミカタ]	・「位ごとに」大きさを比べたり、「0.1の何こ分」とみたりして、小数の大小を比較したことを振り返り、加法や減法にも関心を広げて、次の問題解決につなげる。	・小数の加法の意味を理解し、繰り上がりのない小数の加法の計算ができる。	・小数の加法及び減法の計算のしかたを、整数の計算のしかたなどと関連づけて考えている。
			⑥繰り上がりのない小数の加法の計算のしかたを理解する。	・2.5+1.3のような、繰り上がりのない小数の加法の計算のしかたを考える。		
			⑦繰り上がりのある小数の加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・2.6+1.7のような、整数部分へ繰り上がる加法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まどめアニメ「2.6+1.7の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・小数の加法の筆算形式を知り、繰り上がりのある小数の加法の筆算ができる。	
			⑧小数の加法で答えが整数になる場合や、整数と小数の加法の計算ができる。	・1.4+2.6のような、答えの小数部分が0になる加法の計算のしかたを考える。 ・3.5+4.8のような、整数+小数の加法の計算のしかたを考える。	・小数の加法で答えが整数になる場合や、整数と小数の加法の筆算ができる。	
			⑨繰り下がりのない小数の減法の計算のしかたを理解する。	・2.5-1.3のような、繰り下がりのない小数の減法の計算のしかたを考える。	・小数の減法の意味を理解し、繰り下がりのない小数の減法の計算ができる。	
			⑩繰り下がりのある小数の減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。また、整数と小数の減法の計算ができる。	・3.2-1.8のような、整数部分から繰り下がる減法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まどめアニメ「3.2-1.8の筆算のしかた」を使って確認・説明する。 ・3-0.6のような、整数-小数の減法の計算のしかたを考える。	・小数の減法の筆算形式を知り、繰り下がりのある小数の減法や、整数と小数の減法の筆算ができる。	
1	88～89	まどめ	⑪学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまどめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「小数」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。						
・既習の数の見方や表し方などをもとに、小数の意味と表し方、計算のしかたについて主体的に考えたり、身のまわりから小数が用いられる場面を見つけたりしようとしている。						

■ まほうじん

1月下旬（1時間）
p.90

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	90		①魔方阵の空欄にあてはまる数を、筋道を立てて考えることができる。	・魔方阵のしくみを知り、空欄にあてはまる数を考える。 ・空欄の数を増やした魔方阵や、小数の魔方阵にも取り組む。		・提示された条件をもとに、空欄にあてはまる数値の求め方を、式を用いて筋道を立てて考えている。

◎ ふく習④

時	頁	学習活動
1	91	・「円と球」「重さ」「分数」の復習をする。 ・単元16「2けたの数のかけ算」に関わる既習事項を確認する。

16 2けたの数のかけ算

2月上旬～中旬（12時間）
p.92～103

◆単元の目標と評価規準

○2位数や3位数に2位数をかける乗法について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、乗法の計算のしかたを考えることに進んで関わり、その過程を振り返り、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(3)ア(ア)イ、A(3)イ(ア)】

- ・2位数や3位数に2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることや、その筆算のしかたについて理解し、乗法の計算が確実にできる。<知・技>
- ・数量の関係に着目し、計算のしかたを考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。<思・判・表>
- ・乗法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。<態度>

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
9	92 100	(何十をかける計算)	①②1位数×何十、2位数×何十の計算のしかたを理解する。	・「キャップは何こひつよう？」の活動をきっかけに、4×3や4×10のような既習の計算を振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもつ。 ・4×30のような、何×何十の乗法の計算のしかたを考える。 ★まどめアニメ「4×30と4×3の関係」を使って確認・説明する。 ・12×30のような、何十何×何十の乗法の計算や、40×30のような、何十×何十の乗法の計算のしかたを考える。	・乗数を10倍すると積も10倍になる関係を理解し、1位数×何十、2位数×何十の計算ができる。	・何十をかける乗法の計算のしかたを、10をもとにしたり、乗法に関して成り立つ性質を活用したりして考えている。
		(2けた×2けたの計算)	③④2位数×2位数=3位数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・12×23のような、2位数×2位数の乗法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まどめアニメ「12×23の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・2位数×2位数=3位数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・2位数×2位数の乗法の計算のしかたを、既習の計算をもとに図や式などを用いて考えている。
		(計算のくふう)	⑤2位数×2位数で、部分積が3桁になる乗法の計算ができる。	・39×75のような、部分積が3桁になる乗法の計算のしかたを考える。	・2位数×2位数で、部分積が3桁になる乗法の筆算ができる。	
			⑥被乗数や乗数に空白がある場合について、乗法の筆算の工夫のしかたを理解する。	・28×30を、通常の計算のしかたと、省略するしかたで計算をして比べる。 ・40×36と36×40の計算のしかたを比べる。	・乗法の筆算の工夫のしかたを理解している。	
			[つながるミカタ]	・2位数×2位数の計算のしかたについて、「数を分ける」という見方を振り返り、数が大きくなった場合にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・3位数×2位数=4位数の乗法の筆算ができる。	・3位数×2位数の乗法の計算のしかたを、被乗数が2位数の場合の計算をもとに考えている。
		(3けた×2けたの計算)	⑦3位数×2位数=4位数の乗法の計算ができる。	・218×34のような、3位数×2位数の乗法の計算のしかたを考える。 ★まどめアニメ「218×34の筆算のしかた」を使って確認・説明する。		
10	103 104	学んだことを使おう	⑧日常生活の場面と関連づけて、乗法の計算を活用することができる。	・「校舎の高さを調べよう！」という目的意識から、必要な情報を選択して校舎の高さを求め、その求め方について説明する。		・校舎の高さを求めるのに必要な情報を判断し、乗法を用いて解決するしかたを考え説明している。
		まどめ	⑩学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまどめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「2けたの数のかけ算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。						
・乗法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに主体的に考えたり、乗法を生活や学習に活用しようとしていたりしている。						

■ ドッジボールのコートをかこう

2月下旬（1時間）
p.104

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	104		①図形の定義や性質、作図のしかたをもとに、校庭にドッジボールのコートをかく方法を理解する。	・巻尺やひも、棒を使って、直角をつくって長方形をいかたり、半径を決めて円をいかたりして、校庭にドッジボールのコートをかく。		・図形の定義や性質、作図のしかたを、日常生活の問題解決に生かしている。

17 倍の計算

2月下旬（4時間）
p.105～109

◆単元の目標と評価規準

○ある数量がもう一方の数量の何倍かを求める場合や、もとにする大きさを求める場合に、除法が用いられることを理解するとともに、図や式などを用いて数量の関係を考察する力を身につける。また、倍の計算に進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(4)ア(ア)(イ)(ウ)、A(4)イ(ア)】

- ・ある数量がもう一方の数量の何倍かを求める場合や、もとにする大きさを求める場合に、除法が用いられることを理解している。<知・技>
- ・ある数量ともう一方の数量との関係に着目し、図や式などを用いて、既習の乗法や除法と関連づけながら演算の意味を考察している。<思・判・表>
- ・倍の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。<態度>

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
2	105 106 107 108		①何倍かを求める場合に除法を用いることを理解する。(第一用法)	・3cmの7倍の長さを求める場合に乗法を用いることを振り返る。 ・18cmは3cmの何倍かという関係を考察することをおして、何倍かを求める場合に除法を用いることを知る。 ★まとめアニメ「倍の求め方」を使って確認・説明する。	・ある数量がもとにする数量の何倍かを求めるには、除法を用いることを理解している。	・数量の関係や、何倍かを求めるしかたを、図や式などを用いて考えている。
			②もとにする大きさを求める場合に除法を用いることを理解する。(第三用法)	・もとの長さの5倍の長さが40cmという関係を考察することをおして、もとにする大きさを求める場合に除法を用いることを知る。	・もとにする大きさを求めるには、除法を用いることを理解している。	
2	109	まとめ	③学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「倍の計算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・2つの数量の関係について、既習の乗法や除法などをもとに粘り強く考えたり、倍の計算を生活や学習に活用しようとしていたりしている。

◎ ふく習⑤

	頁	学習活動
	110	・「三角形」「□を使った式と図」「小数」「2けたの数のかけ算」の復習をする。

18 そろばん

3月上旬（3時間）
p.111～114

◆単元の目標と評価規準

○そろばんによる数の表し方を理解し、簡単な加法及び減法の計算ができるとともに、そろばんのしくみに着目し、大きな数や小数の計算のしかたを考える力を身につける。また、そろばんに進んで関わり、そのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(8)ア(ア)(イ)、A(8)イ(ア)】

- ・そろばんによる数の表し方を理解し、簡単な加法及び減法の計算ができる。＜知・技＞
- ・そろばんのしくみに着目し、簡単な加法及び減法の計算のしかたを考えている。＜思・判・表＞
- ・そろばんに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
3	1 1 1 1 1 4	(そろばんの数の表し方)	①そろばんの各部の名称、しくみ、数の表し方について理解する。	★シミュレーション「そろばん」を使って活動する。 ・そろばんのしくみを知り、十進位取り記数法による数の表し方と対比しながら、そろばんでの数の表し方を知る。 ・そろばんの数の入れ方、はらい方を知る。	・そろばんのしくみと、数の入れ方、はらい方を理解し、そろばんを使って数を表すことができる。	・そろばんのしくみに着目し、数の表し方及び加法、減法の計算のしかたを考えている。
		(そろばんの計算)	②そろばんを使って、簡単な1位数や2位数の加減計算ができる。	・基本的な加法、減法の珠の動かし方を知る。 ・ $31+58$ 、 $89-58$ 、 $4+3$ 、 $7-3$ 、 $4+7$ 、 $11-7$ のような、簡単な加減計算のしかたを知る。	・そろばんによる加法及び減法の計算のしかたを理解し、簡単な1位数や2位数の加減計算ができる。	
		③そろばんを使って、何万や小数の加減計算ができる。	・ $3万+5万$ や $10万-2万$ のような何万の加減計算、 $2.3+0.6$ や $1.1-0.8$ のような簡単な小数の加減計算のしかたを知る。	・そろばんを使って、何万や小数の加減計算ができる。		
		[読み書きそろばん]	・そろばんが、最も大切な勉強の1つとして学ばれていたことを知る。			
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・そろばんのしくみに関心をもち、数を表したり計算したりすることに主体的に取り組もうとしている。						

■ カレンダーを調べよう

3月上旬（1時間）
p.115

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
	115		①規則的に並んだ数のきまりを筋道立てて考え解決することをおして、論理的な思考力を伸ばす。	・カレンダーで3つ並んだ数の和を考察して、きまりを見つける。		・規則的に並んだ数のきまりを筋道立てて考えている。

● 算数を使って考えよう

3月上旬（2時間）
p.116～119

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	116 117 118 119	(給食調べ)	①②知識・技能等を活用し、課題解決のための構想を立て、筋道を立てて考えたり、数学的に表現したりすることができる。	・給食アンケートをまとめた表やグラフをもとに、「好きなメニュー調べ」の結果から読み取れることを考え、説明する。		・表やグラフを用いて表されたデータをよみ取ったり、その根拠についてデータをもとに説明したりするなど、算数の学習を活用して考え表現している。
		・部屋の図をもとに、ドアを開くときに動く範囲を考え、どの本棚を置けばよいかを説明する。			・日常の場面から算数の問題を見だし、長さや円などの学習を活用して解決したり、言葉や図、式などを用いて説明したりするなど、算数の学習を活用して考え表現している。	
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。						
・数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。						

◎ 3年のまとめ

3月中旬（5時間）
p.120～123

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
5	120 121 122 123		①②③④第3学年の学習内容の問題を解決することができる。	・数と計算、図形、はかり方、表とグラフについての問題に取り組む。	・第3学年の学習内容について、知識及び技能を身につけている。	
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・第3学年で学習した基本的な問題について、それらが確実に身につくように取り組もうとしている。						